

じょうけい

真宗大谷派 至徳山 浄慶寺

蓮如上人絵像



浄慶寺本堂欄間

蓮如上人「疫癘（えきれい）の御文」より

浄慶寺住職 大塚 展彦

日頃よりお世話になっております。この度の豪雨災害により被災された方々、新型コロナウイルス感染症によって困難な社会状況を強いられている全ての皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

お聖教の言葉に、「これさらに疫癘によりてはじめて死するにはあらず。生まれはじめしよりさだまれる定業なり」という蓮如上人（浄土真宗再興の祖、本願寺八代門首）のお言葉があります。一読すると冷酷な文章にも読めますが、上人の真意はそうではなく、新型コロナウイルス感染症の流行に対する適切な取り組みとは異なり、感染症の脅威によって、人と人との互いに疎外し、偏見と差別による憎しみが増長している現在の社会状況にも通じる「病」についての視点を示唆しているのではないのでしょうか。

その内容を次のように教えて頂きました。「病を避ける事は誰にも出来ません。また、たとえ病が治ったとしても、死を迎える時を逃れる事は出来ません。」「限りのある命の事実気づく時、今日一日の命を大切に生きるのではないのでしょうか」「私自身一日にかけがえのない大切さに気づく事が出来た時に人は、目の前の一人の人間のかけがえのなさに気づくのではないのでしょうか」

「生まれはじめしよりさだまれる定業なり」とは、釈尊の説かれた縁起の道理をもとにされた言葉です。運命論ではありません。人が死去する事の悲しみは、全ての人にとって違いはありません。

「病」に苦しみその治癒を願う心は、全ての人にとって同じです。悟りとは、苦しみ悲しみを共にする心です。今日一日の私の心がそのような心に転ぜられる、そこに阿弥陀如来の願いがあり、蓮如上人の願いがある事をこのお手紙は伝えようとしているのではないのでしょうか。

注：「疫癘（えきれい）の御文」1492年 蓮如上人 78歳の年に書かれたお手紙です。

「疫癘（えきれい）」とは、感染症のことです。

平安時代から痘瘡（天然痘）・麻疹（はしか）・風疹の大流行が幾度も発生しました。

このお手紙は、上人滅後真宗門徒が親しみ（ご家庭のお仏壇の前で朝に夕に）読み継がれてきました。今日まで500年以上、大切にされてきた理由は、新型コロナに直面している現在の私たちの社会状況に通じることが、ご先祖様方の時代の中にもあったのでしょうか。

体験談

—偶然か必然か—



浄慶寺 門徒 三根 繁

pixta.jp - 59401037

私は昭和11年(1936年)、長崎市水の浦町で生まれ育ちました。ここは、長崎港の西側に位置し、背後の稲佐嶽の山ひだのような谷あいの小さな町でした。

海岸線には三菱重工長崎造船所をはじめ当時は関連の軍需工場が立ち並んでいました。

この住民は殆んどが三菱関係の職工さんで、私の父もタービン技師として三菱造船に務めていました。

私の家族は両親のほか兄姉妹六人で、私は下から2番目でした。私が生まれた昭和11年は後に二二六事件と呼ばれる陸軍のクーデター未遂事件が起こった年です。

この流れでその後中国への侵攻が拡大し、ついに大東亜戦争へと発展しており、私の少年期は戦争の真っただ中でした。

長崎は原爆投下以前に5回の通常爆弾による空襲を受けています。攻撃目標はいつも三菱造船と関連工場、私たちは至近距離に住んでいたのでいつも防空壕の中で震えていました。

そして6回目の空襲が昭和20年8月9日午前11時02分、米軍が投下した原子爆弾です。

私は爆心から3.4Kmの三菱病院内で被爆しました。当時9歳、飽の浦国民学校の3年生でした。

幸い大けがを負わずに助かりました。当時を振り返ると私は何度も命の危険に遭いながら、奇跡的な偶然が重なって生き延びたことをその後もずっと不思議に思っていました。

その一は、焼夷弾不発です。

昭和19年8月長崎に初めて米軍機による空襲がありました。約200発の焼夷弾が私の町に落とされました。ところが只の1発も発火しなかったのです。翌朝、派出所の前には円筒形・六角形など様々の形状の不発弾が山のように積み上げられていたのを見ました。

若しこれが発火していたら町は全滅でした。

その二は、建物強制疎開を免れたことです。

前の焼夷弾攻撃を受けて、三菱造船に近い約80軒の民家に「建物強制疎開」が発令され、私の家にも赤紙が貼られました。父は自分の出身地である城山町(原爆爆心地近く)の親戚に当分お世話にならんと仕方がないねと言っていました。ところが、建物解体の直前になって、私の家の並び10軒ほどが疎開猶予になったのです。計画通り城山地区に疎開していたら、間違いなく命はありませんでした。

その三は、原爆投下が目標から約3.4Km北側に外れたことです。

後に原爆攻撃機の機長の著述によれば、長崎での投下照準点は中島川にかかる常盤橋(眼鏡橋付近)上空500mでした。目標地点に投下されていたら、長崎市の被害はさらに甚大なものとなったでしょうし、私も2km以内にいましたので多分助からなかったと思います。

これらの私にとっての幸運はこれまで、「奇跡的な偶然」と思っていました。敢えて不遜のそしりを懼れずに申せば、若しや、神仏の大きなエネルギーによって生かされた「必然」ではなかったのか？と考えるようになりました。

『生き残って、戦争の愚かさ、原子爆弾の残虐さを体験者としてしっかり後世に伝え、平和を守れ』との使命を与えられたような気がしてなりません。

(合掌)

真宗（大谷派・東本願寺）への導き

《第十四回》

親鸞聖人の歩まれた道

出家御絵伝



誕生と出家（9歳）

1173(承安3)年、親鸞聖人は、京都にお生まれになりました。父である日野有範は朝廷に仕える役人でしたが、母についてはさだかではありません。9歳の時、親鸞聖人は、後の天台座主・慈円のもとで出家されます。それから20年もの間、比叡山延暦寺できびしい修行と学問にはげられました。しかし、どれだけ修行と学問にはげんでも、さとりを開く道を見出すことはできませんでした。

法然上人とののであい（29歳）

親鸞聖人は、29歳の時、比叡山の仏教と決別し、道を求めて聖徳太子ゆかりの六角堂に籠られました。そして、95日目の暁あかつき、聖徳太子の夢告にみちびかれて、法然上人のもとをたずねられます。

法然上人は、だれに対しても平等に「ただ念仏もうしなさい」とお説きになっていました。親鸞聖人は、この教えこそ、すべての人に開かれている仏道であるとうなずかれ、法然上人を生涯の師と仰ぎ、念仏者として歩み出されました。

法然上人のもとで、親鸞聖人は約6年間過ごされました。その間に、法然上人から主著『選択本願念仏集』の書写と真影(法然上人の肖像画)の製作を許されました。また、恵信尼公と出会い、結婚されたのもこの頃とされています。

越後・関東での生活（35歳から60歳ごろ）

法然上人の念仏の教えには、親鸞聖人だけでなく、老若男女、身分を問わず、たくさんの人々が帰依されました。しかし、興福寺や延暦寺などの他宗から強い反発を受け、ついに朝廷が弾圧に踏み切ります。その結果、4人が死罪、8人が流罪というきびしい処罰が下され、法然上人は土佐(現在の高知県)へ、親鸞聖人は越後(同 新潟県)へ流罪となりました。親鸞聖人36歳の時でした。5年後、流罪が許された親鸞聖人は、法然上人の死を知ると、京都には戻らず関東へ向かわれました。

そこで約20年間滞在し、常陸(同 茨城県)の稲田を中心に、念仏の教えを広く伝えていかれました。また、この地において、主著『顕浄土真実教行証文類』(『教行信証』)を書き始められたとされています。

京都での生活（60歳ごろから90歳）

親鸞聖人は、60歳ごろ関東から京都に戻られたといわれています。その後、関東では念仏の受けとめをめぐる、様々な混乱や対立がおこりました。そのなかで、誤った教えを広めた長男の慈信房善鸞と親子の縁を切るという悲しい出来事もありましたが、親鸞聖人は、『教行信証』を書きすすめるとともに、終生同朋・同行に手紙や書物を送り、念仏の教えを伝え続けられました。

1262(弘長2)年11月28日、親鸞聖人は90年の生涯を終えられました。末娘の覚信尼公ら家族や門弟たちが、死を看取、葬儀を行ったといわれています。遺骨は、大谷(現在の京都市東山区)に埋葬され、小さなお墓が立てられました。このお墓が廟堂となり、やがて本願寺(真宗本廟)の御影堂へと受け継がれていくのです。



入滅御絵伝



行事予定

- 報恩講 11月14日(土)・15日(日)
両日とも13時30分から
- 修正会 令和3年1月10日(日)
13時30分から

文芸欄

※このコーナーに、川柳・短歌・俳句などを、お寄せください。

言い勝った詮無い悔いがまだ重い

ひと匙が甘い私の正念場

煩惱を鮮やかに切る鎌の月

塔中の柱を磨く無の時間

川柳

山口由利子

坊守のついで

(前号より引き続き)

コロナウィルスの感染が続く中、世間では、「疫病が退散するヨゲントリ」が取り上げられています。浄土真宗のお経には「共命之鳥(ぐみょうのとり)」という鳥が登場します。共命之鳥は、実在しない鳥ですが、仏の心を体現している鳥です。その身体は、1つの胴体に2つの頭を持つ双頭の鳥で、2つの頭がそれぞれ別々の心を持っています。つまり、心は別でも体は1つなので命を共有しているということです。なので「共命之鳥」という名が付いています。仏典にとあるエピソードがあります。カルダとウパカルダという名の2つ頭の共命之鳥がいました。ウパカルダは、自分が眠っている間にカルダがおいしい木の実を腹いっぱい食べるため、起きたときには満腹でなにもごちそうが食べられません。お腹は一つだから、いつもこれを不満に思っていたウパカルダは、あるとき毒の実を見つけました。これを自分が食べれば、同じ身体を持つカルダは死んでしまうだろうと考えたウパカルダは、カルダが眠っている間に毒の実を食べました。案の定、カルダは悶絶して死んでしまいます。



(次号に続く)

浄慶寺 坊守 大塚 麗



編集後記

新型コロナで日常の生活もずいぶん影響を受けている事と思います。この禍の終息が早く訪れる事を祈念しましょう。

本堂で通夜・葬儀ができます

お寺本堂での通夜・葬儀を希望する場合は以下の手順です。

①お寺(住職)に、ご一報をお願いします。

(住職携帯電話:090-2318-3268)

②下記の何れかの葬儀社を選択して、『浄慶寺の門徒です。

本堂でお通夜・葬儀を依頼します』とお伝え下さい。

◇みんせい葬祭・福岡市博多区大博町(担当者:竹内)

092-271-7422(24時間受付)

又は090-1342-0006(24時間受付)

◇お葬式のおおやぎ・福岡市早良区飯倉(担当者:龍相=りゅうそう)

092-865-4400(24時間受付)

※不明なことは、住職に相談ください。



じょうけい 第14号

《発行》

真宗大谷派 浄慶寺 大塚展彦
浄慶寺門徒会 川嶋正實

〒810-0063

福岡市中央区唐人町3-10-49

《編集》

浄慶寺寺報編集担当 塩川大一